

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

すべての子どもたちの可能性を引き出す教育の実現
 ～H2O（ほめて・励まし・お互いに）～
 話し合い活動の深化、協働的な学びの創造

川内中学校
 「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 大谷 哲也	委員 校長：布川美保 教頭：齋藤大志 田宮亘司
	教務主任：北田雅哉 研修主任：釜床愛子
	学年主任：岩佐亜紀 大谷哲也 山本美代子

校長

布川 美保

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○提出物が確実にできている生徒の割合が87%、授業内容が理解できている生徒の割合が84%である。 ●長い文章を読み取ったり、複数の資料から適切な内容を探したりして、要約して書くことに課題がある。	・授業内容をおおむね理解できている。 ・基礎的・基本的な内容を習得している。 ・長い文章を読み取ったり、複数の資料から適切な内容を探したりして、要約して書くことができる。	・単元ごとに小テストを実施する。 ・発達段階に応じた、適切な量・質の課題を与える。 ・朝の読書や図書室の開館など、本に触れる機会を意図的につくる。 ・徳島新聞阿波っ子タイムズの「こども鳴潮」の視写を週1回行う。			

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員による授業参観や校内巡視などを通して、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学級での話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできる生徒が79%である。 ●自分の考えを他の人に説明したり、積極的に発表したりしている生徒が52%である。 ●文章を適切な言葉にまとめて書いたり、聞き手や読み手を意識して適切な言葉を選んだりすることに課題がある。	・各授業における課題に対し、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・課題についての説明を、根拠や理由を明らかにして、適切な言語活動により表現することができる。	・話し合いや発表にタブレット等のICTを効果的に活用する。 ・自分の意見を根拠や理由を明らかにして発表したり書いたりする機会をつくる。 ・話し合い活動を通して、他者の考えから自らの思考を深める。 ・オープンクラス・ウィークを年2回実施し、他教科等の授業方法を学ぶ。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイム着席ができている生徒の割合が92%で、学習の準備ができている。 ○自分の課題を理解し、意欲的に取り組んでいる生徒が80%である。 ●家庭学習の習慣が身につけている生徒が59%であり、宿題以外の勉強をする習慣が身につけている生徒が62%である。主体的に家庭学習に取り組むことに課題がある。	・主体的に授業に臨む基本的姿勢が確立でき、学習に課題意識を持って取り組むことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を見つけ、その課題を解決できるよう計画を立て、家庭学習で実践することができる。	・「授業のルール10か条」を全学級に掲示し、ほめて励ます指導を通して学習規律を徹底する。 ・各授業で「めあて」と「振り返り」を行い、見通しのある授業を展開する。 ・川中学習ハンドブックを活用した家庭学習を行う。 ・テスト前に、学習記録表を配布し、目標の設定や学習状況の記録、テスト後の振り返りをさせる。 ・タブレットを活用した自主的な家庭学習を促す。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

